

海外研修の成果と今後の課題 －高松大学・高松短期大学の場合－

井上 浩 巳*

Future Prospects of Overseas Training Programs at Takamatsu University and Takamatsu Junior College

Hiromi Inoue

要約

本稿は、高松大学・高松短期大学で実施している英語圏への海外研修プログラム（ニュージーランドコース・ハワイコース）の2つのコースについて紹介するものである。本学では、2006年にニュージーランドクライストチャーチにあるクライストチャーチ・ポリテクニック工科大学と、2012年にアメリカ合衆国ハワイ州にあるハワイ大学マウイカレッジと学術交流協定を締結した。その後、2008年度より協定校における海外研修プログラムを実施してきた。

以下において、本学の海外研修プログラムの概要ならびに今後のプログラムの在り方・問題点について検討する。

キーワード：海外研修、学術交流協定、ホームステイ

(Abstract)

The purpose of this paper is to report on overseas training programs to the English-speaking countries of New Zealand and the U.S., conducted by Takamatsu University and Takamatsu Junior College. The university concluded agreements on academic exchanges and cooperation with Christchurch Polytechnic Institute of Technology, Christchurch, New Zealand in 2006, and with University of Hawaii, Maui College, Hawaii, America in 2012. Since 2008, overseas programs for the purpose of English study, cultural exchange, and international understanding have carried out at these partner institutions.

* 提出年月日 2015年11月30日 高松短期大学秘書科講師

This paper reports on the outline of the overseas training programs and examines the future state of these programs.

Key words : overseas training program, academic exchanges and cooperation, homestay

1. はじめに

本学では、2006年にニュージーランドにあるクライストチャーチ・ポリテクニク工科大学（Christchurch Polytechnic Institute of Technology、以下CPITと記載）、2012年にハワイ大学マウイカレッジ（University of Hawaii, Maui College）と学術交流協定を結び、2008年度より協定校における海外研修プログラムを本格的に開始した。途中SARSやクライストチャーチの震災の影響で延期、中止となった年があったものの、2015年度で6回目の実施となる。今年度のハワイコースの参加者数を含めると、これまで延べ49名の学生が本プログラムに参加した。

語学研修が中核をなす海外研修プログラムは2008年度よりスタートしたが、これ以前には「海外研修」を授業科目として取り扱い、単位を付与していた時代もある。1999年度にアメリカ海外研修、2001、2002年度には、カナダ・アメリカ海外研修を行ってきたが、これらはスポーツやビジネスにおける社会見学、現地視察という研修の側面と、プロバスケットボールの試合観戦、ディズニールランドやユニバーサルスタジオといった大型テーマパークの訪問といった観光旅行とを兼ね備えた研修であった。

また本学短期大学においても、1970年から1989年にかけて計8回、香港、イギリス、カナダ、オーストラリア等で海外研修旅行を行ってきた¹。この研修旅行では、各国の大学の教授陣や有識者からその国の歴史や社会情勢、教育制度など幅広い分野についての講義を聴講し、またドイツ・オーストリア研修では音楽科学生対象の公開レッスンを受講するなど、現在の語学研修を核にしたプログラムとはその趣の異なるものであった²。

2. 海外研修プログラムの概要

本学は、海外の大学などと学術交流を図ることで、学生や教員の国際感覚を養うことを目的に、現在下記の9校と学術交流協定を結んでいる。

※ () 内は提携日

アメリカ合衆国	
ハワイ大学マウイカレッジ (2012.9.7)	
ニュージーランド	
クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学 (2006.8.22)	
中国	
西北大学 (2002.10.14)	青島市立青島旅游学校 (2008.5.20)
西安外事学院 (2003.9.18)	青島職業技術学院 (2011.5.19)
河南財經学院 (2005.8.30)	
韓国	
大田保健大学 (2009.1.30)	
インドネシア	
ジェンデラル・スディルマン大学 (2014.4.4)	

上記9校のうち、海外研修プログラムを実施しているのは4校（ハワイ大学マウイカレッジ、クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学、西安外事学院、青島職業技術学院）である。また、この4校においても申込者数や国際情勢、地震の影響により実施できなかった年度もある。中国コースについては、2004年度に第1回目の研修を行って以降、大気汚染等社会問題や申込者ゼロが重なり、実施が見合わされている。

2.1 ニュージーランドコース

2.1.1 協定校CPITの概要

CPITは、ニュージーランド南島最大の都市クライストチャーチ中心部に位置する工科大学である。ニュージーランド政府により1906年に創立された国立教育機関で、ニュージーランドで最も長い歴史と規模を誇る高等教育機関の一つである。実践的な職業訓練と専門教育を重視し、ビジネスや建築学、看護などの学士号を取得できる大学と同等の性質と、職業訓練のための総合専門学校という面を併せ持つ。毎年、約25,000人の学生が3,600を超える様々なコースを受講しており、その中の英語学科は1989年に開設され、世界50か国以上もの国から留学生を受け入れている。



CPITの英語学科は、一般英語コース、ケンブリッジ英語検定やIELTSなどの各種検定対策コース、職業体験ができるボランティアコース、英語教授法コースといった幅広い語学コースを提供している。学生数は約200名、1クラスの定員は平均15名、最大22名と、語学クラスとしては望ましい人数で授業を受講することができる。英語のクラスレベルは、初級から上級まで6レベルあり、入学前にプレイスメントテストを受検し、個々の学生の語学力に合致したクラスへと配属される。

2.1.2 研修期間ならびに研修内容

これまで実施した3回のプログラムの研修期間は、次の通りである。

年度	研修先	研修期間
2008	ニュージーランド	2008年8月25日～9月13日の20日間
2009	ニュージーランド	2010年2月13日～3月13日の29日間
2010	ニュージーランド	2010年8月21日～ <u>9月10日</u> ^{*1} の21日間 2010年8月28日～ <u>9月10日</u> までの14日間 ^{*2} ^{*1} 研修期間中に地震が発生したため期間が短縮。当初の予定は9月13日まで。 ^{*2} 夏季休業中の集中講義に参加した学生は、1週間遅れて参加。

研修内容については、基本的に午前（9:00-12:00、金曜のみ9:00-11:00）の語学研修に続き、午後にはアクティビティを実施している。語学研修は、事前にプレイスメントテ

ストを受け、学生個々のレベルに合ったクラスへ配属され、他の国の留学生と共に授業を受講する。午後のアクティビティは、本学独自のプログラムで、近隣の文化施設訪問、自然を体験するアクティビティ、小学校訪問やマオリ族の文化や歴史を学ぶ学外研修を行う。過去に行ったアクティビティの一例を挙げる。

- ・ カンタベリー博物館訪問
- ・ ウィロウバンク動物公園視察
- ・ 先住民族マオリのダンスや作品作り
- ・ ファームステイ
- ・ ゴンドラ（マウント・キャベンディッシュ）
- ・ プリスクールや小学校への訪問（折り紙、書道、日本の遊び等の紹介）
- ・ ロッククライミング
- ・ ジェットボーディング
- ・ エイボン川パンティング

下表は、2010年度の研修日程である（当初の予定）。

月日	滞在地	行程
8/21（土）	高松 ↓ 関西国際空港 ↓	高松駅 発（リムジンバス） 関西国際空港 着 関西国際空港 発
8/22（日）	ゴールドコースト ↓ オークランド ↓ クライストチャーチ	ゴールドコースト 着 ゴールドコースト 発 オークランド 着 オークランド 発 クライストチャーチ 着
8/23（月）	クライストチャーチ	【午前】 プレイメントテスト 【午後】 シティツアー
8/24（火）	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 アクティビティ
8/25（水）	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 アクティビティ
8/26（木）	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 アクティビティ
8/27（金）	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 自由行動
8/28（土）	クライストチャーチ	【終日】 自由行動
8/29（日）	クライストチャーチ	【終日】 自由行動
8/30（月）	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 アクティビティ

8/31 (火)	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 アクティビティ
9/1 (水)	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 自由行動
9/2 (木)	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 アクティビティ
9/3 (金)	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 ファームステイ
9/4 (土)		【終日】 ファームステイ
9/5 (日)		【終日】 ファームステイ
9/6 (月)	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 アクティビティ
9/7 (火)	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 アクティビティ
9/8 (水)	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 アクティビティ
9/9 (木)	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 アクティビティ
9/10 (金)	クライストチャーチ	【午前】 語学研修 【午後】 修了証書授与式とお別れパーティ
9/11 (土)	クライストチャーチ	【終日】 自由行動
9/12 (日)	クライストチャーチ ↓ オークランド	クライストチャーチ 発 オークランド 着
9/13 (月)	ゴールドコースト ↓ 関西国際空港 ↓ 高松	オークランド 発 ゴールドコースト 着 ゴールドコースト 発 関西国際空港 着 関西国際空港 発 (リムジンバス) 高松駅 着

週日(月～金)は15時から16時の間に一日のスケジュールが終了するため(金曜日は11時終了。以降自由行動)、学生は街を散策したり、買い物へ出かけたりして各々自由な時間を過ごす。クライストチャーチは、「メトロ(Metro)」と呼ばれる市バスが町の中心部と郊外をくまなく網羅しており、学生はホームステイ先からCPITまで各自バスで通学する。そのため現地で全員が「メトロカード」というチャージ式のカードを作る。このカードを利用すれば、1日に2回利用するだけで、つまり自宅と大学の往復に使うだけでそれ

以降どの路線も一日乗り放題になる。また平日5日間利用すれば、土日は無料となる。このバスを利用することで、学生自らが行動範囲を広げ、現地の人と接し様々な体験を得ることができるなど、本プログラムが「生きた英語研修」となる重要な要素となっている。

土日はホームステイ先で過ごすため各ホストファミリーによって異なるが、買い物や観光地へ連れて行ってもらう学生もいれば、語学クラスで新しく友達になった他の国の留学生と一緒に出かける学生がいたりと様々である。また、ニュージーランドは自然を様々な形で楽しむことのできるアクティビティが充実しており、個人でホースライディングに申し込むなどして乗馬を体験する学生もいた。

さらにニュージーランドコースは、研修期間が比較的長期であるため、週末にクライストチャーチから2時間ほど離れた場所にある農場での2泊3日のファームステイも研修に組み入れている。ファームステイとは、農場や牧場、酪農を営んでいる家庭に滞在し、大自然を満喫したり、動物と触れ合ったりして、ニュージーランドのライフスタイルを体験できるプログラムである。農場主やその家族による英語での指導のもとに、羊の毛を刈ったり、子羊にミルクを飲ませたり、また夜には満点の星空や流れ星を眺めたりと、ニュージーランドの雄大な自然を体感できるこのアクティビティは学生に非常に人気が高い。

2.2 ハワイコース

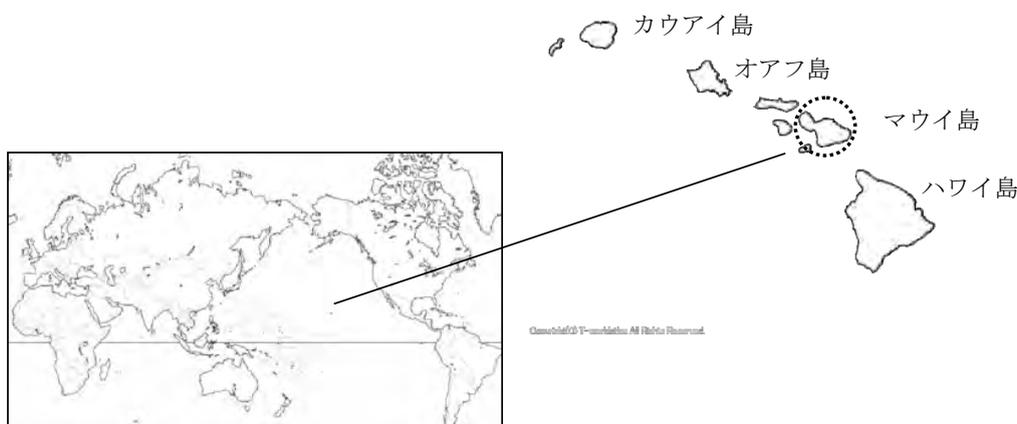
2.2.1 協定校ハワイ大学マウイカレッジの概要

ハワイ大学マウイカレッジ (University of Hawaii, Maui College、以下UHMCと記載) は、アメリカ合衆国ハワイ州マウイ島にある州立大学である。ハワイ大学は、ハワイ全土に3つの4年制大学 (マノア校、ウエストオアフ校：ともにオアフ島、ヒロ校：ハワイ島) と6つのコミュニティ・カレッジ (カピオラニ・コミュニティカレッジ、リーワード・コミュニティカレッジ、ホノルル・コミュニティカレッジ、ウインドワード・コミュニティカレッジ：以上、オアフ島、カウアイ・コミュニティカレッジ：カウアイ島、ハワイ・コミュニティカレッジ：ハワイ島)、4年制大学とコミュニティ・カレッジ両方の機能を併せ持つハワイ大学マウイカレッジから成る州立の大学で、UHMCは2010年にマウイ・コミュニティカレッジから現在の名に名称を変更した。

マウイ島は、ハワイで2番目に大きな島で香川県とほぼ同じ面積を持つ。UHMCは、マウイ島の空の玄関口カフルイ空港から車で10分ほどの距離にあり、マウイ島中央部に位置する。本学学生が研修を受けるマウイ・ランゲージ・インスティテュート

(Maui Language Institute、以下MLIと記載)は、マウイカレッジのキャンパス内にあり、UHMCの附属英語学校である。第二言語として英語を学ぶ個人、グループに対して3つの英語学習プログラム①大学編入、進学に向け英語力を高める集中英語プログラム(Intensive English Program)、②1週間から4週間ほどの短期集中プログラム(Short-Term Program)、③単位互換可能な1か月から4か月ほどの学期間短期留学プログラム(Semester Abroad on Maui)を提供している。本学は英語学習とマウイの文化や歴史、環境について学ぶことのできるセミナーやエクスカージョンとを組み合わせた短期集中プログラム(STP)を実施している。

1クラスの学生数は、時期によっても異なるが5～10名前後で、2015年現在初級Beginner・中級Intermediate・上級Advancedの3つのレベル、4クラスが開講されている。ニュージーランドコースと同様に、初日のプレイズメントテストでレベルに応じたクラスが決定される。



2.2.2 研修期間ならびに研修内容

これまでに実施した2回ならびに今年度の研修期間は、下記の通りである。

年度	研修先	研修期間
2012	ハワイ	2013年3月5日～3月16日の12日間
2013	ハワイ	2014年3月4日～3月15日の12日間
2015	ハワイ	2016年2月28日～3月10日の12日間

研修は、基本的に9時から13時30分までが語学研修、午後がアクティビティで構成されている。通常は、ニュージーランドコースと同様に、プレイスメントテストで個々の学生のレベルに応じたクラスで他国の留学生と共に授業を受講するが、2012年度の一部期間と2013年度は本研修プログラムの日程とマウイカレッジの休暇期間が重なり、本学独自のプログラムで遂行した。そのため、他の国からの留学生と関わる機会がほとんどなかったが、今年度は休暇期間との重複がないため通常のMLIの授業を受けることになる。金曜日は授業がなく、終日エクスカーションへ参加する。今年度は、ハレアカラ登頂、マカワオ散策、イアオ溪谷の見学を予定している。これまでに行ったアクティビティの一例を挙げる。

- ・カヌーパドリング
- ・マウイオーシャンセンター（水族館）
- ・ホエールウォッチング
- ・ラハイナ散策
- ・フラダンス、レイ作り
- ・プリスクール訪問
- ・ハレアカラ登頂
- ・ビーチピクニック

ニュージーランドコースとは異なり、公共交通機関が発達していないため通学はホストファミリーによる送迎である。そのため、学生が個人で自由に行動できる時間はほとんどなく、常にホストファミリーと一緒に過ごすことになる。また、午後のアクティビティの移動についても、公共のバスに乗りしたこともあるが、ほとんどの場合大学側が準備したマイクロバスで移動を行う。事後に取ったアンケートにも、「自分が行きたい・やりたいと思っていたことがあまりできなかった」、「教員やホストファミリーに常に守られており、一人の自由行動ができる時間がほとんどなかった」といった感想が見られた。

週末については、ホストファミリーと過ごすため、何をするかについては各ホストによって異なる。過去のプログラムでは、週末にすべてのホストファミリーが集まったビーチでのポットラックパーティに参加し、アメリカならではの習慣や食事、そして“アメリカらしさ”を満喫した。また、ホストファミリーと過ごす時間が長いいため、より一層交流を深め良好な関係を築くことができた。しかしながら、ハワイコースの研修期間は実質9日間であり、週末も一度しかなく、スケジュールもびっしりと詰まっているため、学生の満足度を高めるための改善が必要である。幸運にも、MLIの向かいには大型ショッピングモールがあり、ホストファミリーや引率者など他の助けを借りずに食事の注文、買い物をするなど自身の語学力を試す機会を設け、個人の時間を確保するなどの対策が求められる。

下表は、2015年度の研修日程である（予定）。

月日	滞在地	行程
2/28（日）	高松 ↓ 羽田 ↓ ホノルル	高松空港 発 羽田空港 着 羽田空港 発 ホノルル空港 着
	ホノルル ↓ カフルイ	ホノルル空港 発 カフルイ空港 着
2/29（月）	マウイ	【午前】 オリエンテーション、プレイスメントテスト キャンパスツアー 【午後】 語学研修・エクスカージョンの事前学習
3/1（火）	マウイ	【午前】 語学研修 【午後】 フラダンス・レイ作り
3/2（水）	マウイ	【午前】 ホエールウォッチング 【午後】 マウイオーシャンセンター、エクスカージョン の報告会
3/3（木）	マウイ	【午前】 語学研修 【午後】 語学研修・エクスカージョンの事前学習
3/4（金）	マウイ	ハレアカラ、マカワオ、イアオ溪谷
3/5（土）	マウイ	【終日】 自由行動（ホストファミリー）
3/6（日）	マウイ	【終日】 自由行動（ホストファミリー）
3/7（月）	マウイ	【午前】 語学研修 【午後】 ラハйнаツアー（自由行動）
3/8（火）	マウイ	【午前】 語学研修 【午後】 自由行動 【夜】 修了証書授与式とさよならパーティ
3/9（水）	カフルイ ↓ ホノルル ↓	カフルイ空港 発 ホノルル空港 着 ホノルル空港 発
	成田 ↓ 羽田 ↓ 高松	成田空港 着 成田空港 発（リムジンバス） 羽田空港 着 羽田空港 発 高松空港 着

3. 2つのコースの主な相違点

これらニュージーランドコースとハワイコースの2つのコースについて、筆者の感じた主な差異について取り上げる。

- ①他の国の留学生との関わり
- ②英語クラスの規模
- ③ホームステイ
- ④学生個人の自由な時間、自由な行動、週末・放課後の過ごし方
- ⑤通学方法
- ⑥日本語の通用度
- ⑦評価、修了証書

①と②については、2つのコースで大きく異なる。前述した通りニュージーランドコースの場合、語学のクラス数、留学生の数ともに規模が大きいため、本学から参加した学生同士が同じクラスに配属されることが少なく、必然的に他国の留学生との関わりが増す。また、後述するようにニュージーランドコースはホストファミリーに干渉されず、自分で裁量できる時間が多く持てることから、週末に他国の留学生と出かけたり、留学生が開催するパーティに参加したりと、新たな交流・人脈が広がる。一方、ハワイコースはこれまではMLIの休暇期間と重なり本学独自のプログラムの割合が大きく、またクラス数自体が少ないために他国の留学生と関わる機会はほとんどなかった。

③のホームステイについては、ホストファミリーの受け入れ意識や目的に違いが見られる。どちらのコースも国際交流や異文化交流が目的で日本人留学生を受け入れるホストが多いが、ニュージーランドの場合、ひとり親家庭であったり、ベッドルームに空きがあるからといった理由で、留学生を受け入れることで得られる収入を充てにしている家庭も見られる。過去には、ホストファミリーが家にいない状態が続いたことが原因で、ホストファミリーを変更した学生もいる。一方ハワイのホストファミリーは、親日家が多く、ホストファミリー同士が集まってパーティやビーチピクニックを開催するなど学生との積極的な関わりが見られる。放課後や週末は必ず学生とともに過ごすこともニュージーランドコースとの大きな相違点である。また、ニュージーランドコースは1家庭1人の受け入れに対して、ハワイコースは1家庭に2人もしくは3人が滞在する。この点については、1人であるが故に日本語を一切使わず積極的にホストファミリーとコミュニケーションが取

れたという学生もいれば、2人であったため緊張がほぐれ、お互い助け合えたと双方の評価に分かれた。

⑥の日本語の通用度については、ハワイの方が圧倒的に高い。これは、ハワイの人口の中でも日系アメリカ人は大きな割合を占め、日系のホストファミリーも多く、盆踊り(Bon Dance)や様々な宗派のお寺、マウイ太鼓など、至る所で日本語や日本文化を目にする機会があるためである。過去のホストファミリーの中には、日系人や日本人のホストマザーがいたこともあり、学生が話す日本語を理解できるホストファミリーも多く見られた。

④⑤については、2.1.2と2.2.2で述べた通りである。

⑦については、どちらのコースも最終日に修了証書の授与式が行われる。MLIは修了証書のみ授与されるのに対してCPITは、Core English Academic Profileと呼ばれる成績表も同時に付与される。これには、学生一人ひとりの出席状況、語学レベル、リスニングやスピーキング、リーディング、モチベーションなどの項目における評価や教員のコメントが記されており、帰国後の個人の学習や教師による指導に大いに役に立った。

4. 事前・事後指導の内容

海外研修プログラムに参加する学生は、事前指導5回、事後指導1回の受講が義務付けられている。事前に研修先について自ら調べたり、目標を明確にしたりすることで、本研修の効果を最大限に高めることがねらいである。さらに受動的に情報を与えられるのではなく、自ら情報を探し得ることで、より深く知りたいという主体的な姿勢や意識の変化が期待できる。内容については、渡航や入学に必要とされる手続き等の書類作成から研修先の歴史や地理的内容に関する調査、英会話練習などその内容は多岐に渡る。また、滞在方法がホームステイであることから、各家庭のルールや留意すべき事項などの行動指針についても学ぶ。

下表は、各コースにおける事前研修、事後研修の内容である。

【ニュージーランドコース】

事前指導	第1回	海外研修ニュージーランドコースについての概要説明 助成金について(レポート課題・英語の試験) 事前指導・事後指導について 単位認定について
------	-----	--

	第2回	CPITについて プレゼンテーションについて① 海外研修申込書、その他書類の記入について ホームステイアプリケーションフォームの記入
	第3回	助成金のための試験 プレゼンテーションについて② 海外旅行・ホームステイでの英会話①
	第4回	プレゼンテーション ～私のNZ満喫術～ ホームステイについて 準備物について 海外旅行・ホームステイでの英会話②
	第5回	海外研修参加諸注意 海外旅行・ホームステイでの英会話③ 入国・出国について 緊急時の連絡について 事後研修、事後レポートについて
	事後指導	帰国報告会
	【ハワイコース】	
事前指導	第1回	海外研修ハワイコース・MLIについての概要説明 助成金について（レポート課題・英語の試験） 事前指導・事後指導について 単位認定について 参加者の自己紹介・志望動機発表
	第2回	助成金のための試験 ハワイに住む日系アメリカ人の文化と歴史 ハワイ・マウイに関する事前調査について プレゼンテーションについて① ホームステイアプリケーションフォームの記入 海外研修申込書、その他書類の記入について
	第3回	ハワイ・マウイに関する事前調査発表 海外旅行・ホームステイでの英会話① プレゼンテーションについて②
	第4回	プレゼンテーション ～本研修で取り組みたいこと、自分の 目で確かめたいこと～ 現地レポについて Sayonara Partyの準備① ホームステイでの諸注意 準備物について
	第5回	海外研修参加諸注意 緊急時の連絡について Sayonara Partyの準備② 日本の文化、香川の紹介 海外旅行・ホームステイでの英会話② 入国・出国について 事後研修、事後レポートについて
	事後指導	帰国報告会

どちらのコースも第4回目に、参加学生一人ひとりが本研修で取り組みたい事柄を在学生や教職員に向けてプレゼンテーションする「事前研修発表会」を開催している。また、研修後も事後指導として同様に「帰国報告会」を行い、本プログラムで経験したことや学び得たことについても広く発信している。

5. 実施状況について

表1は、2008年度から2015年度までのプログラムの実施状況、研修先、学部・学科別参加者数を表している。

圧倒的に大学発達科学部が24名と多いが、これは英語教員に限らずゼミ担当教員などの熱心な働きかけに加え、発達科学部には小学校教員養成課程があり、2011年度より小学校で外国語活動が必修になったという状況も大きく関係している。必修化に伴い教員に英語力が求められており、英語を習得する必要性を強く感じていることが要因として考えられる。他にも、発達科学部の学生の研修動機のレポートには、「子どもたちに経験談を伝えたい」、「教員として必要とされるコミュニケーション力を高めたい」、「どのように英語を教えているのか知りたい」、「色々な経験を通して魅力のある先生になりたい」といった積極的な参加態度や明確な目的意識が多く見られた。

表1. プログラム実施状況と参加者数

年度	研修先	大学		短期大学		計
		発達	経営	保育	秘書	
2008	ニュージーランド	3	0	0	4	7
2009	ニュージーランド	0	0	0	2	2
2010	ニュージーランド	4	1	5	0	10
2011	震災の影響で中止					
2012	ハワイ	5	0	4	3	12
2013	ハワイ	6	2	0	3	11
2014	最少催行人員を満たさず中止					
2015	ハワイ ※予定	6	0	0	1	7
	計	24	3	9	13	49

また、秘書科の学生が多い理由としては、海外研修担当教員である筆者が同科に属しており、学生に直接体験談を話したり、写真を見せたりして、積極的に本プログラムをア

ピールしていることが考えられる。別の言い方をすれば、他の学部・学科においても、より一層本プログラムの魅力を発信する機会が必要であり、そのことが参加者数増加に結び付くのではないかと考える。

6. 参加費用について

表2は、2008年度から2015年度までの各プログラムの研修費用の一覧である（概算値）。

表2. 研修費用一覧

年度	研修先	協定校 ホームステイ関係	航空券 その他	研修費用	為替レート
2008	ニュージーランド	2,050 NZD	190,000円	約38万円	1 \$ = 80円
2009	ニュージーランド	2,750 NZD	180,000円	約35万円	1 \$ = 60円
2010	ニュージーランド	2,500 NZD（3週間） 2,000 NZD（2週間）	160,000円 160,000円	約34万円 約30万円	1 \$ = 70円
2012	ハワイ	1,600 USD	140,000円	約29万円	1 \$ = 90円
2013	ハワイ	1,600 USD	150,000円	約32万円	1 \$ = 100円
2015	ハワイ ※予定	1,750 USD	170,000円	約38万円	1 \$ = 120円

表2から、研修費用が原油価格や為替相場に大きく左右されることは歴然としている。当然、研修先や研修期間によっても額に開きが見られるが、研修期間が同一であるハワイコースにおいてはその差が顕著で、申込者数の低迷につながっていることは否めない。2015年度は、12日間の研修で38万円と費用も高い水準にあり、学生を取り巻く経済的背景を考慮すると、参加者数の減少はやむを得ない。それに加え、最近では価格の安さを前面に出した“フィリピン留学”も学生の間では選択肢の一つとして人気が高く、それら個人留学プログラムとの差別化も必要とされる。

7. 助成金と単位認定について

本学では積極的に海外研修に参加できるよう、渡航に必要な経費の一部について留学助成金を支給したり、研修に参加することで語学に関する科目の単位として認定される制度を設けている。

7.1 助成金について

本学では、学術振興基金選考委員会において、下記の選考基準を満たす者に助成金が支給されることになっている。

1. 以下の推薦基準の条件に該当することが認められる者
 - (1) 留学の目的意識を明確に持っている者
 - (2) 留学先の言語学習に強い意欲のある者
 - (3) 国際交流に積極的に参加できる者
2. ゼミ又は研究室担当教員から推薦された者
3. 本学の代表としてふさわしい人物であること

基準1の(1)(3)については、参加者全員が本プログラムに参加するに至った動機や目的、研修への意欲、将来にどう生かしていきたいかについてのレポートを提出し、数名の審査員によって採点が行われる。(2)については、1時間ほどの英語の試験を実施し、レポートと英語の試験結果、さらにゼミ又は研究室担当教員からの『留学助成にかかる推薦状』をもとに、学生委員会において推薦順位の審議がなされる。その後、学生支援部長から学長に推薦し、学術振興基金選考委員会の助成者選考を経て、基準を満たす者に助成金が支給されることになっている。

7.2 単位認定について

5日間の事前指導、研修プログラム、事後指導(帰国報告会)を受けたのち、「単位認定」の申請を行った者に下記の単位が認定される(2015年度現在)。

○大学

「英語Ⅰ・Ⅱ」各1単位または「プラクティカル・イングリッシュⅠ・Ⅱ」各1単位
または「国際理解」2単位(2013年度以前入学者のみ)

○短期大学

「英語Ⅰ・Ⅱ」各1単位または「実用英語Ⅰ・Ⅱ」各1単位

8. 今後の展望・課題

最後に、学生のアンケート結果ならびにこれまでに生じた課題から、今後本海外研修プログラムが継続、発展していくにあたって成すべき方策を3点挙げたい。

(1) 参加者数増加に向けた取り組み

まず最優先に取り組むべき課題が参加者数の確保である。「5. 実施状況の表1」にある通り、2014年度のハワイコースは最少催行人員を満たさず中止となり、本年度の参加者数も7名と低迷している。ニュージーランドコースの場合、午後の本学独自のプログラム＝アクティビティをせず、午前・午後ともに既存の語学クラスを受講するプログラムであれば、人数に制限はない。そのため2009年度は、2名でも実施が可能であった。しかしながら、従来通り午後にアクティビティを企画するとなると、インストラクターの配置や移動費などプログラムを遂行するにあたって両コースともに最低10名の人数確保が要求される。助成金制度があるとはいえ、全員が受けられるとは限らず、また35万円前後の高額な費用がかかるため、経済的に諦めざるを得ない学生が多く見られる。計画的に前もって費用の準備ができるよう、現在、入学式後のオリエンテーションにおいて新入生全員に対して本プログラムの説明ならびに募集要項を配布しているが、大学2から4年生、短期大学2年生に対しては掲示による周知にとどまっている。また、参加申し込み締切期日の1か月ほど前から2～3回、全学生対象に説明会を開催しているものの、参加の意思を固めた数名の学生のみでの出席で、広く広報できていないのが現状である。「5. 実施状況」において、秘書科からの参加者数が多い要因としてアピールの機会の多さを挙げた。このことから、年間を通して継続的に、さらに興味の有無に関係なく一人でも多くの学生に本プログラムの魅力を発信できるようその方法や手段を模索していく必要があるであろう。

(2) 研修効果の実証

これまでのところ、本プログラムが語学力にもたらす影響についての量的検証は行っていない。特にハワイコースについては、研修期間が実質9日間と短期間であるため、その効果は期し難い状況である。事実、短期の海外語学研修は語学学習のモチベーションを上げること以外期待はできないという調査結果もある³。しかしながら、学生にとって英語を学ぶ意義を見出し、その有用性を実感し、今後の自発的かつ継続的な学習へと士気を高める意識改革こそが本プログラムの目指すところの一つである。この点については、事後アンケートで以下の記述が見られ、本プログラムに対して一定の成果が示されたと評価している。

- ・英語をもっと上達させて世界の人とコミュニケーションを取りたいという向上心が芽生えた。
- ・メンバーや先生、ホストファミリー、留学生などコミュニケーションを自然にとる場

がたくさんあった。英語がうまく話せなくても、積極的に行動すればコミュニケーションが図れるのだと思った。しかし、自分が言いたいことを即座に英語に換えることができず、スムーズに英語で会話ができるようになりたいと思った。

- ・初めは簡単な英語さえ聞き取ることが困難だったが、少しずつ理解できるようになるにつれ、授業が楽しくなった。英語を勉強することが苦手だったが、もっと英語を勉強したいと思えるようになった。楽しみながら英語を勉強することの大切さを知ることができた。
- ・日本に戻って、英語を使う生活をすることはなくなったが、嫌で仕方なかった英会話をまた習いたいと思うようになったので、もう1度英会話をしっかりと勉強したい。

一方、志望動機のレポートには、「英語でコミュニケーションを取りたい」、「実践的な英語力を身に付けたい」と、語学力の確実な向上を期待する声が高い。したがって、数値でその効果を実証することが、参加者数増加への一助となり得る。これらを踏まえ、今後本プログラムの語学力に対する効果を検証することが必要となってくるであろう。

(3) ハワイコースの期間の検討、自由時間の確保

当初ニュージーランドコースが3週間、ハワイコースが2週間での実施計画であったが、研修期間に比例する形で費用が高んだため、ハワイコースは現在の12日間と短縮を余儀なくされた。移動を考慮すると実質9日間の期間に対して、学生からは短さへの不満の声が上がった。アンケートで、この12日間という期間を適切だと答えた人数が短すぎると答えた人数とほぼ同数であったため、現在震災の復興を鑑み延期となっているニュージーランドコースを再開し、学生の要望に適うことができるよう両コースを隔年実施で行うなどの改善が求められる。

また、意見として多く挙げた自由時間の確保については、「2.2.2 研修期間ならびに研修内容」で挙げた方策を今年度のプログラムに反映し、その経過を追うとともにさらなる改善へと努めていく。

以上、本学で実施している英語圏への海外研修プログラムの概要ならびに取り組むべき課題を挙げた。各関連機関と連携を取りながら、引き続き学生の満足度を高めつつ、本プログラムのより一層の充実、発展に向け、努力を重ねる次第である。

謝辞

最後になりましたが、本海外研修プログラムを企画、実施するにあたってご協力いただきました協定校の教職員の皆様、高松大学・高松短期大学の教員、事務職員の皆様に深謝いたします。

注

- ¹ 高松短期大学 (1995)、『高松短期大学創立25周年記念誌』高松短期大学、39頁
- ² 「ふれあいを求めて - 英国かけあし旅行 -」高松短期大学英国研修旅行団、1983年、15-30頁
- ³ 山内ひさ子「短期海外研修の効果を上げるための取組 - 長崎県立大学国際情報学部国際交流学科の場合 -」『留学交流』2015年4月号Vol.49、3頁

参考文献

- ・柴田道信、河村殖「海外研修の現状と課題」『山口短期大学研究紀要』2013年第33号
- ・高松短期大学 (1995)、『高松短期大学創立25周年記念誌』高松短期大学
- ・ポール・バテン、高木由美子「Intercultural exchange programme in Chiang Mai March 2010 異文化交流を推進するための実践」香川大学教育学部、2011年
- ・松田康子「短期海外研修の成果と長期海外研修への展望」『留学交流』2012年8月号Vol.17
- ・松田康子「短期海外研修の成果と意義 - 学生の報告書とアンケート調査の結果から -」『名古屋文理大学紀要』2012年第12号
- ・山内ひさ子「短期海外研修の効果を上げるための取組 - 長崎県立大学国際情報学部国際交流学科の場合 -」『留学交流』2015年4月号Vol.49
- ・「四国高松学園だより かすが」2000年第67号、四国高松学園学園だより編集部
- ・「CPITへようこそ」CPIT発行大学案内、2009年
- ・「高松大学・高松短期大学学園だより」2000年第65号、高松大学・高松短期大学
- ・「高松大学・高松短期大学学報」2002年第40号、高松大学・高松短期大学
- ・「高松大学・高松短期大学学報」2002年第41号、高松大学・高松短期大学
- ・「高松大学2000年度～2006年度シラバス」、高松大学
- ・「高松短大学園だより」1984年第5号、高松短期大学
- ・「高松短大学園だより」1984年第7号、高松短期大学
- ・「高松短大学園だより」1985年第8号、高松短期大学
- ・「高松短期大学学園だより」1987年第12号、高松短期大学
- ・「高松短期大学学園だより」1987年第15号、高松短期大学
- ・「高松短期大学学園だより」1988年第19号、高松短期大学
- ・「高松短期大学報」1983年号外（英国研修旅行特集）、高松短期大学
- ・「高松短期大学報」1983年第25号、高松短期大学
- ・「2008年度海外研修プログラム報告書 ニュージーランドコース」高松大学・高松短期大学、2008年
- ・「2010年度海外研修（ニュージーランド）しおり」高松大学・高松短期大学、2010年
- ・「2010年度海外研修（ニュージーランド）報告書」高松大学・高松短期大学、2010年
- ・「ふれあいを求めて - 英国かけあし旅行 -」高松短期大学英国研修旅行団、1983年
- ・「平成24年度海外研修（ハワイ）研修のしおり」高松大学・高松短期大学、2013年
- ・「平成24年度海外研修（ハワイ）報告書」高松大学・高松短期大学、2013年
- ・「平成25年度海外研修（ハワイ）研修のしおり」高松大学・高松短期大学、2014年
- ・「平成25年度海外研修（ハワイ）報告書」高松大学・高松短期大学、2014年
- ・「平成27年度海外研修（ハワイ）研修のしおり」高松大学・高松短期大学、2016年

- ・ Maui Language Instituteホームページ <http://www.maulanguageinstitute.com/>
- ・ University of Hawaiiホームページ <https://www.hawaii.edu/>

